



「ボランティア活動」を再考する

片桐 公彦

差し出したその手が握り返されない。そういうことあるのだということを知ることができる感覚が被災地におけるボランティア活動に求められる。「自発的な思い」

る。それは「差し出した手が握り返してくれる」ことを前提に成り立っている。しかし、その思いが被災地において必要のない支援であったり、タイミングとして今では不要なのだ。「自分の思い」が相手や社会のニーズにマッチしてこそ活動は成立する。そのことを改めて確認する必要があるだろう。

ためではなく「自分の思いと都合」が優先される活動がこの震災でも繰り返された。

も残った。それはボランティアをする人びとの行動である。あれほど多くのマスコミがボランティアとして現地に向かう際には自己完結でと報道されていても、現地の交通状況も調べない、店舗の空き状況や天候の様子なども調べないで現地入りする者が相当数見られた。4月の東北といえはまだまだ寒かった。それ

3月11日に発生した東日本大震災では、過去の震災がそうであったように今回も多くのボランティアが被災地の支援に入った。1995年の阪神淡路大震災は市民ボランティアが被災地で行政では手が行き届かない分野にも迅速かつ柔軟に対応して大きな成果を挙げたことからその年は「ボランティア元年」と言われた。また今回の震災ではインターネットを経由した募金や寄付が定着したことを印象づけた。ツイッターやフェイスブック、ミクシィといったウェブサービスによって多くの人が方法や方法を瞬時に取り出せるようになった。1995年という年を一つの節目と考えるとそれから15年。震災をキーワードに我々を取り巻く環境は大きく変わった。

にも関わらず毛布も寝袋も持って来ない者、「コンビニ」二ぐらいあると思っ「と軽装のまま現地に入る者、タイヤのチェーンも持たず東北の凍結した山道で立ち往生し自衛隊に助けられる者……物資にしても「必要がない」と何度も伝えても倉庫の物資は増え続けた。組織的に集められた物資は「貰ってくれないと困る」といった本末転倒な風景が何度も被災地では見られた。被災者の

前提に復旧・復興を語る合、ボランティアの力を援活動が現地にも多大な貢献をすることは書くほどのこともなく明白である。もはや我が国で大規模な災害が発生した場合、ボランティアの力を

アとして現地向かう際には自己完結でと報道されていても、現地の交通状況も調べない、店舗の空き状況や天候の様子なども調べないで現地入りする者が相当数見られた。4月の東北といえはまだまだ寒かった。それ

3月11日に発生した東日本大震災では、過去の震災がそうであったように今回も多くのボランティアが被災地の支援に入った。1995年の阪神淡路大震災は市民ボランティアが被災地で行政では手が行き届かない分野にも迅速かつ柔軟に対応して大きな成果を挙げたことからその年は「ボランティア元年」と言われた。また今回の震災ではインターネットを経由した募金や寄付が定着したことを印象づけた。ツイッターやフェイスブック、ミクシィといったウェブサービスによって多くの人が方法や方法を瞬時に取り出せるようになった。1995年という年を一つの節目と考えるとそれから15年。震災をキーワードに我々を取り巻く環境は大きく変わった。

多くのボランティア活動は個人の「思い」から発している。そこには「何かの役に立ちたい」「この問題を解決したい」という動機から始まる。それは「差し出した手が握り返されない。そういうことあるのだということを知ることができる感覚が被災地におけるボランティア活動に求められる。」

前提に復旧・復興を語る合、ボランティアの力を援活動が現地にも多大な貢献をすることは書くほどのこともなく明白である。もはや我が国で大規模な災害が発生した場合、ボランティアの力を

も残った。それはボランティアをする人びとの行動である。あれほど多くのマスコミがボランティアとして現地に向かう際には自己完結でと報道されていても、現地の交通状況も調べない、店舗の空き状況や天候の様子なども調べないで現地入りする者が相当数見られた。4月の東北といえはまだまだ寒かった。それ

3月11日に発生した東日本大震災では、過去の震災がそうであったように今回も多くのボランティアが被災地の支援に入った。1995年の阪神淡路大震災は市民ボランティアが被災地で行政では手が行き届かない分野にも迅速かつ柔軟に対応して大きな成果を挙げたことからその年は「ボランティア元年」と言われた。また今回の震災ではインターネットを経由した募金や寄付が定着したことを印象づけた。ツイッターやフェイスブック、ミクシィといったウェブサービスによって多くの人が方法や方法を瞬時に取り出せるようになった。1995年という年を一つの節目と考えるとそれから15年。震災をキーワードに我々を取り巻く環境は大きく変わった。

しかし変わらないもの

前提に復旧・復興を語る合、ボランティアの力を援活動が現地にも多大な貢献をすることは書くほどのこともなく明白である。もはや我が国で大規模な災害が発生した場合、ボランティアの力を

も残った。それはボランティアをする人びとの行動である。あれほど多くのマスコミがボランティアとして現地に向かう際には自己完結でと報道されていても、現地の交通状況も調べない、店舗の空き状況や天候の様子なども調べないで現地入りする者が相当数見られた。4月の東北といえはまだまだ寒かった。それ

3月11日に発生した東日本大震災では、過去の震災がそうであったように今回も多くのボランティアが被災地の支援に入った。1995年の阪神淡路大震災は市民ボランティアが被災地で行政では手が行き届かない分野にも迅速かつ柔軟に対応して大きな成果を挙げたことからその年は「ボランティア元年」と言われた。また今回の震災ではインターネットを経由した募金や寄付が定着したことを印象づけた。ツイッターやフェイスブック、ミクシィといったウェブサービスによって多くの人が方法や方法を瞬時に取り出せるようになった。1995年という年を一つの節目と考えるとそれから15年。震災をキーワードに我々を取り巻く環境は大きく変わった。